

| < もくじ >                                 |   |
|---|---|
| 1. 2024年度定時総会ならびに第23回大会概要報告             | 1 |
| 2. 2024年度連続講座「長寿時代を生き抜く知恵 Part3」開催のお知らせ | 2 |
| 3. 研究会からのお知らせ                           | 3 |
| 4. 研究会からの概要報告                           | 4 |

## 1. 2024年度定時総会ならびに第23回大会概要報告

### (1) 2024年度定時総会

- 1) 日 時：2024年6月22日（土） 10：30～12：00
- 2) 会 場：千葉商科大学市川キャンパス7号館 711教室

【総会】定足数：総合司会八巻睦子さんより、総会出席者数（書面による議決権行使者を含む）は97名、（会場26名、委任状が71名）は定足数（74名）を満たしているとの報告がありました。議長の柴本淑子さんより、議事署名人は森やす子理事、議事録作成は本田恭助運営委員が指名されました。引き続き、第1号議案（2023年度活動報告）、第2号議案（2023年度収支決算報告）、第3号議案（2024年度活動計画案）、第4号議案（2024年度予算案）の他、第5号議案（役員改選）、18名の重任理事に加えて新理事候補（池口武志、木内晴一、柴本淑子、野中孝泰の4氏）について、各担当理事から説明が行われ、満場一致で承認され、新役員はその場で就任を承諾しました。その後開催された臨時理事会で、各理事の自己紹介の後、袖井孝子理事が会長に、新任理事であるナルク新会長の野中孝泰さんが副会長に選出され、その場で就任を承諾されました。

### (2) 2024年度第23回大会

- 1) 日 時：2024年6月22日（土） 13：00～16：40
- 2) 会 場：総会会場と同じ7号館711教室（オンライン併用）
- 3) 大会テーマ：「だれ一人取り残さない社会の実現に向けて：共生型コミュニティの創出」

■ 参加者：会場参加者43名、オンライン参加者17名（会員13名）、計60名（会員31名、千葉商大学生含む非会員29名）。申し込みされながら参加できなかった人については、録画視聴をお願いしました。

■ はじめに袖井会長から挨拶があり、基調講演とパネルディスカッションが行われました。

■ 基調講演タイトル：「共生型コミュニティ創出のための媒介組織の役割と実践」  
手塚明美さんから、図を用いて中間支援組織の意味が説明されました。「ボランティア元年」と呼ばれた阪神淡路大震災では共助への意欲が噴出しましたが、その状況の中で、公助、共助、ボランティアの間のミスマッチングの問題を契機に、既存組織では対応できない問題の解決のために新たなアソシエーションが数多く生まれました。それらがいかに多様なテーマと地域の事情に応じたかわかりを築いていくかが「共生型コミュニティの創出」の課題であるとまとめられました。

■ パネルディスカッション：★吉竹弘行さん（当学会理事、千葉商科大学教授）から、「福島における地元学生他との都市養蜂事業による地域活性化－福島S-HART事業－」と題して、千葉商科大学の学生と全国自治体に地方創生とSDGs推進に関する教育支援をする企業および福島の地元の高校生までを巻き込み、地方空港を拠点とした地域活性化の試みについて報告されました。



★齊藤紀子さん（会員、千葉商科大学人間科学部准教授）は、「行政・企業・無償ボランティアによる対応からこぼれ落ちたニーズに応える有償ボランティア」というタイトルで、千葉商科大学で学生の団体「よろず隊」の活動に教員としてかわり、要支援者のニーズと支援する側相互のマッチングを妨げている要因の一つとして「有償性/無償性」の問題を取り上げ、有償性が関係を広げる契機になることもあると問題提起されました。★青山陽子さん（会員、B型事業所「実用芸術研究所」施設長）は、「社会の期待の外側に居場所をつくる：B型事業所におけるASD（自閉スペクトラム症）者支援の事例から」というテーマで、知的な遅れを伴わないASD者のリハビリテーションを目的とする施設を運営する経験から報告されました。ASDの人々が一般の人々とのつながりを意識して生きるために、場所の選定や、その作業に段階的に参加し継続するための工夫が紹介されました。



■登壇者と会場参加者の討論：手塚さんから、困った人が助けてくださいと声を上げられる関係をつくるのが重要というコメントがありました。会場とのやり取りでは、千葉商科大学が取り組む地域への社会貢献について、学長の姿勢や商科大学という性格、学外で起こりうる問題（保険、地域へのかかわり方、専門性やレベルの違い、謝礼金、マニュアルが機能しない）などが議論され、学生さんにも経験談を話していただきました。また、社会貢献に定年前後の企業の人々が参加することの意義や注意点、支援団体内と相互のマネジメントの問題、成果の効率性の問題、支援者と被支援者の間の距離の取り方、支援者への支援、マンション住民の無関心層などの問題を巡って、議論が交わされました。



最後に濱口副会長から閉会の挨拶がありました。

■大会終了後の懇親会では、コロナ禍後にはじめて当学会大会後のリラックスした交流の場をエンジョイできました。



◆最後にアンケート結果からいくつかのご意見をご紹介します。アンケートへの回答は15名（会場参加12名、オンライン参加3名）

- \* 今後の生活に重要な問題であると思います。（不明、80歳代、不明）
- \* 多くの質問と、またそれに対する回答もとても丁寧なご説明を聞くことができ大変有意義なディスカッションだったと思います。（会員、50歳代、女性）
- \* NPOへの関わり、阪神・淡路大震災復興支援等、まさに動きゆく時代の中での活動のお話で、大変興味深かったです。「コーディネーターを置く必要性」の部分をもう少し詳細に伺いたかったです。（会員、50歳代、女性）
- \* 孤立しがちな昨今の社会状況下において、とても良いテーマだと思いました。（会員、50歳代、女性）
- \* 千葉商科大学の取組 自然エネルギー、地域を巻き込んだ すごいです。（不明）
- \* 学会のイメージが変わった。よくなった。（会員、90歳代、男性）

## 2. 2024年度連続講座「長寿時代を生き抜く知恵 Part3」開催のお知らせ

《講演内容・日程（開催時間は、全て14：00～16：00）》

◆第1回9月28日（土） 天野 彰（シニア社会学会理事 建築家）

テーマ：「長寿の家」

◆第2回10月19日（土） 木村 利人（シニア社会学会会員 早稲田大学名誉教授）

テーマ：「自分のいのちは自分が決める～バイオエシックス(生命倫理)を実践する」

◆第3回12月7日（土） 吉田 太一（シニア社会学会会員 株式会社キーパーズ代表取締役）

テーマ：「天国へのお引越し～遺品整理のはなし」

□主催：一般社団法人シニア社会学会・東京家政学院大学共催

□会場：東京家政学院大学三番町キャンパス 1602 教室、Zoom 併用によるハイブリッド開催

□参加費：会員・非会員：各回1,000円（学生：無料）

※ オープン講座ですので、会員以外の方の参加も歓迎いたします。

※ 詳細については同報のチラシをご覧ください。

### 3. 研究会からのお知らせ

#### (1) 第162回 「社会保障」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2024年7月24日（水）18:00~20:00

2) 報告者：ホン・イキョン（東京福祉大学大学院）

3) テーマ：「認知症高齢者の作品活動と認知症状との関連」

4) 対面でいたします。会場は東京福祉大学池袋キャンパス5号館3階。地図を添付いたします。

参加を希望される方は、阿部([fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp](mailto:fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp))にご連絡ください。資料をお送りいたします。

研究会の後、久しぶりに懇親会をいたします。参加ご希望の方はご連絡ください。

※ ご質問がありましたら、阿部(旧姓佐藤)まで 090-4436-6853

#### (2) 第99回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2024年7月25日（木）15:00~18:00

2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第7共同研究室

3) テーマ：①討議—濱口座長：「コミュニティ論『人生の居場所が変わるとき、新旧の人生と対面する』」

②発表—大下 勝巳：「好ましいコミュニティの創出」について

4) 参加費：300円

※ お問い合わせは、島村 ([ken-sima1941@jcom.home.ne.jp](mailto:ken-sima1941@jcom.home.ne.jp)) までお願い致します。

#### (3) 第46回「YNS やまぶき任意後見サポート会」開催のお知らせ

1) 日 時：2024年7月27日（土）18:30~20:30

2) 場 所：品川区東大井5-18-1 きゅりあん 第二グループ活動室

3) 発表者：鈴木真澄、及びその他 YNS やまぶき任意後見、アワーズ

4) テーマ：認知症とともに生きる 「信託」と「任意後見」のことを考えていきます。

劇団 <sup>びしょうざ</sup>「B笑座」

認知症らしさを体験することで新たな発見が生まれます。人形劇、寸劇、その他劇団員募集しています。Zoomの参加もできます。

※ お問い合わせは、鈴木 真澄 ([mme\\_masumi@yahoo.co.jp](mailto:mme_masumi@yahoo.co.jp)) 迄お願い致します。

#### (4) 第70回「災害と地域社会」研究会開催案内

1) 開催日時：2024年7月31日（水）16:00~18:00

2) 会 場：早稲田大学26号館1102（会議室とZoomのハイフレックス開催）

3) 開催主体：早稲田大学「地域社会と危機管理研究所」（当研究会は共催）

4) 報告者：平原幸輝（早稲田大学人間科学学術院 助教）

5) テーマ：「所得格差に関する社会空間構造の過去・現在・未来」（仮）

※ 申し込み、お問合せは、長田まで ([pf00052@nifty.com](mailto:pf00052@nifty.com))

#### (5) 第53回「社会情報」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2024年9月25日（水）16:00~17:00

2) 場 所：ちよだプラットフォームスクウェア501会議室

3) 概 要：結局「スマホ購入に至ったか」をテーマに進める

※参加ご希望の場合は、前日までに森 [moriyasu@ied.co.jp](mailto:moriyasu@ied.co.jp) までご連絡ください。



## 4. 研究会からの概要報告

### (1) 第69回「災害と地域社会」研究会開催案内

- 1) 日 時：2024年6月19日（水）18：00～20：00
- 2) 会 場：早稲田大学26号館1102（会議室とZoomのハイフレックス開催）
- 3) 開催主体：早稲田大学「地域社会と危機管理研究所」（当研究会は共催）
- 4) 報告者：所澤新一郎氏（共同通信社 編集局気象・災害取材チーム長）
- 5) テーマ：「能登半島地震の現状と教訓」

報告者は、共同通信の記者として能登半島地震の経過を取材し続けている。主として以下の点について報告された。

半年以上を経過した現在の状況を紹介。家屋の倒壊、液状化、土砂崩れ、道路の通行止め（6/15時点）など、現在でも復旧が進んでいない。行政では地域への水道配管はしているが、そこからは自己負担になる。いまだに毎日水を給水車のいるところまで取りに行き、ビニールハウスや納屋で生活し川で洗濯する人もいる。石川県の創造的復興プランが語られる一方で、そのギャップの大きさはあまり報道されない。

また、石川県6市町では住民基本台帳を基に登録情報システムを通じて避難者の情報把握を行っているが、避難者からの登録に頼っているため限界があり6月半ばに至っても全体把握は出来ていない。関東大震災（1923）のときには、3年前に始まった国勢調査のデータを活用して避難者数の詳細な記録がつくられていたという。

輪島塗では、120工程に関わる人の確保、作業場の確保、輪島塗の下地「地の粉」の確保、販売・流通体制が整う必要があり、その復興に必要な現金を集めるために従事者の一部は全国を回って残った商品の販売に当たっている。しかし、地元の現場の人との間に十分な情報交換がなされているとは言えない。加えて、地域住民の年中行事の中心である寺社の被害も多く、その復旧・復興に行政が動けないという問題も指摘された。参加者との間でも活発な質疑と意見交換がなされた。（長田攻一 記）

### (2) 第45回「YNS やまぶき任意後見サポート会」の報告

- 1) 日 時：2024年6月22日（土）18：30～20：30
- 2) 場 所：品川区東大井5-18-1 きゅりあん 第二グループ活動室
- 3) 発表者：鈴木 眞澄及び会員（YNS やまぶき任意後見サポート会）
- 4) テーマ：認知症とともに生きる

劇団 <sup>びしょうざ</sup>「B笑座」

「人形劇」も混ぜて、楽しく寸劇を行いました。Zoom参加者もできます。（鈴木眞澄 記）

### (3) 第161回「社会保障」研究会報告要旨

- 1) 日 時：2024年6月26日（水）18：00～20：20
- 2) 報告者：宮崎進一（一般社団法人 全国地域生活支援機構・代表理事）
- 3) テーマ：「民間企業（ウエルシア薬局）が推進する地域社会における多主体協働活動の実践～地域包括ケアシステム・地域共生社会における地域活動の位置づけ」
- 4) Zoomで開催
- 5) 参加人数：17名

厚生労働省は2025年までに全国各地で地域包括ケアシステムを確立する予定であるが、実際にはほとんどうまくいっていない。調剤併設型のドラッグストア・チェーンであるウエルシア薬局を拠点に、地域包括ケアシステムの実現を図るという大変にユニークな活動の紹介。主な活動としてあげられるのは、①「ウエルカフェ」の設置、②地域活動への協働参加、③移動販売事業の推進の3点である。

ウエルカフェは、店舗内のフリースペースを、住民が自由に利用する。休憩や井戸端会議の場であるとともに、行政・社会福祉協議会・民間企業などと連携して、健康増進、介護予防や介護相談、認

知症サポーター養成講座、子育て支援相談、子ども食堂、メイクセミナー、スマホ教室などが開催されている。会場使用料は無料であり、インターネットも利用できる。

地域活動への協働参加は、自治体からの要望で、ウエルシアに所属する薬剤師や管理栄養士が出張して、健康相談、子ども薬剤師体験、調理実習などを行うものである。

移動販売事業は、買い物困難な地域に移動販売車を派遣し、販売先で地域住民の交流の場を創出する。オンラインを利用して、薬剤師や看護師との相談もできる。販売価格は店舗と同じで、クレジット決済、ポイント付与、公共料金の支払いも可能である。

ウエルカフェや移動販売車を中心に、自治体・社協・住民・NPOなどと連携して、介護予防や生活支援を行い、地域包括ケアシステムを実現することが狙いであり、儲けることは考えていない。

参加者からは、ウエルシアが成功した要因について質問があり、トップの意識、自治体とりわけ首長の理解、現場の人たちの協力が重要であるとの回答があった。行政の力が弱体化している今日、地域福祉において民間企業を活用することの必要性が高まっている。（袖井孝子 記）

#### (4) 第98回「シニア社会のリテラシー」研究会の報告

1) 日 時：2024年6月27日（木） 15：00～17：40

2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第7共同研究室

3) テーマ：著書『コミュニティ学のスズメ』を読み込んで「コミュニティ」について思うこと

4) 発 表：薄井 滋

発表は、ご自身のコミュニティ体験も含めて、様々な視点からコミュニティの本質について論じられた。まず、コミュニティの体験は子供時代だけであるが、子供にとって、コミュニティの存在と家族以外の人との気配は大事であること。第2に、電車の優先席を例にあげられ、優先席が機能するためには、共感力が必要であり、近隣性を持ったコミュニティの力が必要であること。第3に、ご自分が会社人間であったことから、会社生活はコミュニティがないまま終わったと述懐された。第4に、デジタル化により、地域コミュニティ、グループへの帰属が必要になること。第5に、地縁を基盤としたコミュニティは、無報酬のボランティアであり、仕事観に結びつけて述べている。第6に、ベーシックインカムをコミュニティ復活の可能性に関連して論じられ、暮らしを仕事から離すことであり、仕事として、コミュニティの様々な活動に参加する人が多くなること。それは「こころ定まれば、とこころ定まる」に結びつくと述べられた。

濱口座長は、薄井さんの発表に関して、コミュニティ論はいわゆる共同体論の痕跡を引きずっていないので、庶民的解釈が可能な立場でコミュニティを論ずると、こういう論理展開が可能ですよという見本であったと評された。そして、コミュニティ論は今年度シニア社会学会大会のメインテーマであり、その内実を共生型コミュニティとして提示している。本来コミュニティは人間集団類型としてアソシエーションと組み合わせる表示する、例えば共生的コミュニティの様に使用する際には、なぜこうした用法が可能なのかを検討しておく必要がある。では解法はあるのか。その参考としては『コミュニティ学のスズメ』35ページの図の受け止め方が参考になる。とコメントされた。

（島村健次郎 記）

#### (5) 第53回「ライフプロデュース」研究会の報告

1) 日 時：2024年6月28日（金） 17：30～19：30

2) 報告者：立花一元（ライフプロデュース研究会メンバー）

3) タイトル：『生涯現役』とは？『生涯現役社会』とは？

～「厚労省検討会」の報告書レビューを中心に～

4) Zoom 開催

##### 1. 『生涯現役（社会）』のルーツについて

生涯現役に係わっている関係者へのヒヤリングなどから、清家篤（1998）『生涯現役社会の条件』中公新書がルーツと思われる。本書の中で、特に『生涯現役（社会）』について、「本人が望む限り現役を続ける環境で、個人も企業も社会も活力を維持できる仕組みをつくるということは、世界に冠た

る高齢社会モデルをつくるという意味でも大きな意義のあることである」が印象に残った。

## 2. 厚労省「生涯現役社会の実現に向けた検討会報告書」のレビューより

令和6年3月「生涯現役社会の実現に向けた調査研究事業報告書」では、『生涯現役（社会）』は「意欲のある高齢者が年齢にかかわらず働き続けることができる」社会と表現されている。

※過去3回の報告書においても、「高齢者」「働く」「年齢にかかわらず」が毎回頻出しており、『生涯現役社会』のキーワードと思われる。

## 3. AIの見解（マイクロソフト社のCopilot）より

『生涯現役』とは、一生を通じて活躍し続けること。具体的には、仕事や活動を続けることで、退職や引退をすることなくずっと努力し続けることを意味する。「生涯現役」という言葉の成り立ちや由来ははっきりとは分かっていないが、超高齢化社会や少子化問題により、高齢者の労働力が必要とされ、生涯現役の概念が注目された。

## 4. まとめ(私見)

『生涯現役（社会）』とは、年齢にかかわらず、生涯にわたり、自ら「役割」を持ち、活躍し続ける生き方（活躍できる社会）

※【生涯現役】は・・・若年者から高齢者まで、年齢・性別・国籍を問わないすべての人々が対象～高齢者だけではない、子々孫々に至るまで～  
(立花一元 記)

## (6) 第52回「社会情報」研究会の報告

1) 日 時：2024年7月3日（水） 15:00～16:40

2) 場 所：Zoom 開催

3) テーマ：安田（和）さんの「スマホを利用したいと思う時、困ったこと」をテーマに進める

4) 概要

### ①「スマホを利用したいと思う時、困ったこと」について

安田（和）さんの資料「スマホ未使用者の戸惑い」に沿って進行

【メンバーからのコメント】

- スマホの機能（アプリ）を全て使っている人はほまないで、それは取り越し苦労。
- 利用料金も工夫次第、高価な端末を購入する必要はないのではないか。
- 若い人と利用方法が違うので、スマホ依存にはならないのではないか。
- 記憶の外部化ととらえて、スマホの検索機能やメモ機能をつかうという前向きな捉え方もある。
- auから買い替えのダイレクトメールには、今日これから問い合わせをするほうがいい。2か月後、端末を聞かせていただきたい。

### ②Nisai British International Online School について（齋田さん）

- 日本でも展開しているケンブリッジプログラムをオンラインで受講できるインターナショナルスクール。様々なコースがあり、不登校児向けのプログラムもある。
- 「高齢者のデジタル・インクルージョン」といった点で、JAAS と一部一緒にやれるところがあるのではないか。  
(森やす子 記)

一般社団法人 シニア社会学会・事務局  
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21  
ちよだプラットフォームスクウェア1037  
eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp URL：http://www.jaas.jp/